



## 学習会を開催しました

6月16日、2回目の学習会を開催しました。映画『シェーナウの想い』を上映したあと、参加した29名の皆さんで感想や意見を出し合いました。

今回の学習会の特徴は、地域外・会員外の方々の参加が多かったこと（会員12名、会員外17名）。広報的な活動の大切さを感じた学習会でした。

出された感想・ご意見は次のとおりです。

- シーナウでの創意工夫に満ちた活動に感心した。この地域は19世紀以来、政治運動が盛んな地域で、リベラルな伝統があったのだと思う。反面、保守的な街でもある。
- ドイツでは、自治体ごとに送電網を自治体のインフラとして抱えている。
- ドイツは4割が原発エネに頼っていた。原発ゼロでもやっていける日本よりは、代替えエネの問題が切実だったのではないかと。福島に行ってきた。砂場で遊べない子どもが、招かれて砂場に行ったとき、触ってもいいかと聞いたという話は、本当に胸が痛む。
- この烏山地域で、再生可能エ

ネルギーの地産地消はできないか。太陽光だけではなく、仙川の水を利用した小発電も考えられる。

- 北烏山の実家でソーラーパネルをつけた。通常は230万円、10年償還だが、シーメンスの中古を格安で買った。1枚120cm×56cm、12ボルトだ。屋根には設置できなかったの、物置の上に設置した。チャージコントローラーで、発電状況を可視化。また、雨水タンクを設置し、庭の水撒きができるようにした。



- 燃料電池というと聞こえは良くないが、水素で発電できる技術が、水素は爆発しやすいという難点を解決して実用化の目途がたった。東京ガス、大阪瓦斯、IHIなどが手を出してきた。電気自動車はそのうち陳腐化するかも知れない。
- 世田谷でも発電は可能だ。保坂区長もこの問題に関しては取り組んでいる。

● バイオマスというが、東京の木は燃やさないことになっている。燃やすと放射性物質が飛散するからだ。

- 再来年には東京湾の放射性物質は4000ベクレルになると言われている。川から流されてきた放射性物質が堆積し続けているからだ。これから放射性物質の問題に一層直面することになる。
- 政府はなぜこのような問題の多い原発にこだわるのか。その理由は、核兵器との関係があるからだ。原発を止めると、核兵器開発がやりにくくなる。核兵器の技術を近隣諸国への抑止力として残しておきたいからだ。
- メルケル首相はもともと核物理学者だ。以前は原子力エネルギーは否定していなかったが、福島で廃止を決めた。
- 毎週金曜日のデモに参加している。日本は地殻変動期に入った。そのような時期に原子力発電を行うことは極めて危険だ。
- 政治を動かすことが大事だ。31万人の署名を集めた原発廃止の住民投票実施請求は共産党と生活者ネット以外の政党の反対で否決された。今度の選挙で原発反対の議員を一人でも多く当選させることが必要だ。

## 都議会選挙の結果について

6月23日に行われた都議会議員選挙の世田谷選挙区の結果を「脱原発」という視点で見ると次のようになります。

- 自民党3人は、原発については一言も触れていません。昨年6月都議会では、34万人の署名による「原発都民投票条例案」に反対しました。

- 公明党2人のうち、1人は全く触れず、1人は「原発ゼロ社会」を目指すと抽象的です。前記条例案にも反対でした。
- みんなの党1人も全く触れていません。
- 生活者ネット1人は「原発ゼロ」を掲げています。
- そして共産党1人は、もちろん「原発ゼロ」を掲げています。

原発推進派の当選は残念ですが、都議会全体では、生活者ネットが2議席から3議席へ、共産党が8議席から17議席に大躍進したことは、大きな前進です。

引き続き7月21日は参院選挙の投票日です。原発再稼働推進の国政を許さないためにも、原発反対の議員を一人でも多く当選させましょう。(S.T)

## 6. 2NO NUKES DAYに参加しました

聞いて新たな怒り

6月2日（日）、国会前で行われた首都圏反原発連合主催の国会包囲に6名の会員の皆さんが参加しました。他にも私達に合流できなかった会員が数名おられたようです。

参加された方から、感想を寄せていただきました。



つながろうフクシマ！さようなら原発集会（芝公園）

● 福島第一原発事故は何も解決してないのに今の政権は原発推進、安全神話をかかげ輸出まで決めています。原発再稼働も当たり前前のことのように進めようとしています。「サイレント・マジョリティー」になりたくないとの思いで老骨に鞭打って6.2大行動に参加しました。国会周辺には6万人が集まったそうです。日本のあちこちで同じ思いの人々が声を上げつづけ、行動を起こしつつ選挙では脱

原発の議員を一人でも増やしましょう。今やらないと子孫に禍根を残すことになります。（給田・T. M）

● 霞ヶ関駅前の歩道で、横断幕を持って立っていた。「栃木県の烏山？」「かわいいですね」「手作り？」「私は烏山の近くよ」などなど、国会に向かう人々が声をかけてくれた。「烏山の会」が「原発ゼロ」をめざす全国の仲間と一つになったような気がした。うれしい時を味わった。（上祖師谷・M. K）



原発ゼロをめざす中央集会（明治公園）

● 明治公園では、1万8千人の参加者で「原発ゼロ」を求める大集会が開催されました。各団体が企画したブースでは、「東電・政府に対する損害賠償集団訴訟」「チェルノブイリより20倍も高い日本（1 msv）の避難・帰還指示基準」「小児甲状腺がんの発症実態」「原発メーカーに責任を問える法律を」等など、見

ると、ただちに原発ゼロにしなければと痛感しました。

集会後の六本木コースのデモ行進では、ドラム隊のサンバリズムにのって、小生も四竹（江戸大道芸の楽器）をたたきながら「原発いらない」「いますぐ廃炉」「再稼働反対」「子供を守ろう」・・・と沿道行き交う人たちへコールし続けました。

夕方からの国会大包囲行動では、三つのグループが合流し6万人を超える参加者で、原発の再稼働・輸出を推進する安倍内閣に糾弾のコールを突き続けました。

翌日のラジオや新聞各紙の報道も、無視の報道機関や、取り



反原発☆国会大包囲（国会前大集会）

扱いが軽視され偏った内容など、マスコミを取り込み更なる報道規制の強化を感じました。

引き続き、地域からの「原発ノー」の発信が大事だと思います。（給田・A. M）

## 新刊紹介

高橋真樹著『自然エネルギー革命をはじめよう』（大月書店）という本を読みました。

「あなたの町に電力会社をつくらう！」という呼びかけで始まるこの本は、第1章で、日本各地で風力や太陽光、小型水力発電による電力の地産地消の試みがすすめられていることを紹

介したあと、第2章では、太陽熱温水器の積極的な活用と森の再生による森のエネルギーの全面的な利用の重要性を説いています。

ドイツの映画『第4の革命 エネルギー・デモクラシー』に刺激を受けた著者は、最後に、「水の国」であり「火の国」である日本の特徴を存分に活かし

て地熱、温泉による発電など日本独自の自然エネルギー革命をはじめようと呼びかけています。

巻末の「エネルギー・シフトのために、あなたにできること」リストも参考になります。

この出版社からは田口理穂著『市民がつくった電力会社 シェーナウの草の根エネルギー革命』という本も出ています。（下村由一）